

会 議 記 録

件名	令和5年度第1回芦別市部活動改革検討協議会		
日時	令和5年10月6日(金) 18:00～19:45	場所	総合福祉センター2階 ふれあいホール
出席者	<p>■検討協議会委員 会長、副会長、委員15名(欠席2名)</p> <p>■教育委員会 教育長、学務課長、生涯学習課長、体育振興課長、学校教育係長、社会教育係長、体育振興係長、学校教育係主査</p>		
内 容			
1	<p>開 会 進行：学務課長</p>		
2	<p>委嘱状の交付 ※机上配布</p>		
3	<p>教育長あいさつ</p> <p>皆様、こんばんは。まずもって、部活動改革検討協議会の委員として市内各団体を代表いたしまして15名の皆様がお引受けをいただきましたこと、また、4名の皆様が公募に応じていただきましたことに心からお礼を申し上げます。</p> <p>加えまして、本日、何かとお忙しい時間帯の中、ご出席をいただきましたことにつきまして、厚くお礼を申し上げる次第でございます。</p> <p>本来でありましたら、皆様お一人おひとりに直接、委嘱状の交付をさせていただき、その際にお礼とお願いを申し上げるべきところでございますが、感染症予防や会議時間短縮の観点から割愛させていただきましたことに、ご容赦をたまわりますようお願いを申し上げます。</p> <p>さて、皆様ご承知のとおり、文部科学省及び北海道教育委員会におきましては、少子化の中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる対応と教員の働き方改革推進などの観点から、部活動の地域移行に関する方針が示されたところでございます。</p> <p>本市におきましても少子化が進む中、子どもたちの数そのものが残念ながらどんどん減少し、単独チームの維持が難しい状況にあるなど、部活動を取り巻く環境に大きな変化が生じているところではありますが、国が示した部活動の地域移行を受け止めながら、部活動に対する生徒の希望や目標を叶えていくことを最優先に部活動のあり方を検討していかなければならないものと考えているところでございます。</p> <p>もとより、部活動については生徒のスポーツ・文化芸術に親しむ機会を確保し、生徒の主体的な参加による活動を通じて、責任感や連帯感を涵養し、そして自主性の育成にも寄与するなど、大きな役割を担ってきたものと考えているところでございます。</p> <p>このため、今後におきましても生徒が継続してスポーツ・文化芸術活動を行うことができる環境整備を図ることが必要でございます。繰り返しにはなりますが、このたび、国及び北海道から示された地域移行のあり方につきまして、具体的な検討を進めていかなければならないところではありますが、教育委員会といたしましては、部活動の地域移行の観点だけではなく、</p>		

すべての世代の市民の皆様を対象に、スポーツ・文化芸術活動の機会を地域全体で支えていく仕組みづくりにつきまして、当協議会において様々な角度から意見交換や検討をしていただき、今後の方向性を見出してまいりたいと考えているところでございます。

多岐にわたる課題があるものと承知しているところではございますが、委員皆様の特段のご尽力を心からお願い申し上げまして、意を尽くせませんが、お礼とお願いのご挨拶といたします。委員の皆様、宜しく願いいたします。

4 委員自己紹介

各委員から所属団体及び自己紹介を行った。

5 正副会長の互選について

各委員に選出方法を確認し、事務局に一任となったことから、事務局案を提案し、会長に星槎国際高等学校長、副会長に上芦別小学校PTA会長を選出した。

6 正副会長あいさつ

会長あいさつ

「微力ではありますが、将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ環境の整備に努めてまいりたいと考えております。私は38年間道立高校に勤務をし、定年退職した翌日から星槎国際高等学校にお世話になり、現在8年目を迎えております。ぜひ、皆様方と忌憚のない意見交換をして、芦別市をスポーツ芸術面で盛り上げていきたいと考えておりますので、よろしく願いします。」

副会長あいさつ

「私は、中学時代は吹奏楽を、高校から現在に至るまでバレーボールをつづけています。週に1回程度のペースで啓成中学校の女子バレーボールチームの練習の手伝いをしていきます。この会が、芦別全体にとってより良いものになるように、その一助になればと思っておりますので、よろしく願いいたします。」

7 芦別市部活動改革検討協議会設置の経緯と位置づけについて

事務局より資料に基づき説明

8 部活動の地域移行について

事務局より資料に基づき説明

9 児童生徒及び保護者を対象としたアンケート調査の実施について

事務局より資料に基づき説明

10 先進地視察の実施について

事務局より資料に基づき説明

【会長】 ただいまの説明について、各委員から質問等をお受けします。

【委員から特に意見なし】

11 意見交換

【会長】 次に、意見交換ということですが、事務局からは、この取組の方向性や教育委員会としての素案について説明がありました。この取組については、休日の部活動の地域移行を進めていく中で、市として、持続可能なスポーツ・文化活動を地域で支えていくということで、地域クラブを創設することが示されましたが、このような地域クラブの在り方も含めて、今後の部活動の在り方など、どのような観点からでも構いませんので、保護者の立場、指導者の立場、教育現場の立場、あるいは市民の立場から、皆さんの思いをお話しいただければと思います。

お時間の都合もございまして、お一人さま2分程度でお願いいたします。

【委員（スポーツ・文化団体関係者）】

中学校の部活動を地域移行することに関して、学校或いは部活動の顧問の先生から意見は聞いているのでしょうか。といいますのは、小学校や高校、大学は以前から外部コーチが認められています。中学校は教員でなければ部活動の指導ができなかった。最近（ここ10年くらい）は、副会長が啓成中学校で女子バレーボール部のお手伝いをしているように、ようやく中学校においても外部コーチが認められてきている。顧問の先生もチームが強くなると自分で見たいという気持ちになると思うし、このようなことから、中学校は外部コーチを受け入れてくれるのかということに率直に感じている。教育委員会と学校とでよく話し合ってもらい、学校や顧問の先生から部活動は地域で行うべきといった案が出ればよいと思っています。

【委員（スポーツ・文化団体関係者）】

市内にサッカー少年団を立ち上げて18年になるが、今年が一番人数が少なく、10名しかない。今後、どうやって人数を増やして盛り上げていこうか考えています。今年はどうしようもなく深川と合同チームにした。この先を考えると、中学校でサッカー部が2人しか入っていない。子どもたちも薄々感じているらしく、他のクラブチームに5名ほど移ってしまった。私としては地元の中学校で同じスポーツで頑張ってもらいたいと思っていましたが、これを中学校の部活から地域移行でクラブチームにしようとしても、そのクラブチームで人数が揃うかどうか心配です。人数が揃わなければ、他のチームに移ってしまう。上を目指す子どもは強いチームに移ってしまうので、その辺がどうなるかが心配です。

今は、中学校は合同チームでやっていますが、合同チームは、学校に部活動があつて顧問の先生がいなければ合同チームは組めないという決まりがあります。

その一方で拠点校方式というのが増えていていると聞いていますので、どのような形になっていくのかなという思いがあります。

【委員（スポーツ・文化団体関係者）】

部活動の顧問をしている先生方の負担を軽減できるように、いろんな形で進めていければよいと思います。子どもたちにとっては、部活動は学校生活に欠かせないものだと考えています。生徒さんが楽しく健康的に続けられるような環境づくりを行っていければよいと考えています。そのために、どのようにしたらよいのかを皆さんと考えていきたい。

【委員（スポーツ・文化団体関係者）】

芦別市は少子高齢化ということで、文化を守るという意味でも厳しい状況にあります。中学校の部活には、文化関係は吹奏楽部と美術部があります。美術に関しては、先日、市民会館で幼稚園から高校生、一般の方々の作品を展示させていただきましたが、道文連からも、このような取り組みは続けてほしいといわれているし、自分としても守っていきたいと思っていますので、皆さんのご意見を聞かせていただき、また、地方の取組を勉強しながら、進めていければと思っています。

【委員（学校関係者）】

事務局の説明を聞いて理想的で素晴らしいと思いましたが、目的が、生涯にわたってそのスポーツや文化を楽しむことであれば、十分成立すると思いますし、あるいは個人で行うものであれば持続可能かなと思っています。団体で活動するものについては、中学校としては厳しい現状です。今現在、芦別中学校では野球とサッカーと女子バスケットボールが他校と合同チームを組んでいますし、サッカーは、遠く（新十津川町）の学校も含めて3校で合同チームをつくって中体連に出ています。部活動の地域移行については、やる種目を絞った中でやらないと難しいと思っています。子どもたちのことを考えると、滝川や赤平、歌志内、上砂川など、近隣の市町と広域に協力しないとかなかなかうまくできないと思います。陸上に関しては、滝川や深川ではクラブチームを立ち上げてやっており、深川では退職校長がクラブチームの中で音頭

取りをしている。陸上部自体が各学校で成立しない状況の中、広域で取り組んでいます。女子サッカーはもっと人数が少ないが、退職校長がクラブチームを立ち上げて南空知で選手を集めて大会に出場したりしています。芦別には、野球場やサッカー場、陸上競技場など良い施設があるので、それを練習に活用して、子どもの輸送の問題はありますが、広域に募集して、拠点地域的な活動を立ち上げないとなかなか難しいと感じています。

【委員（学校関係者）】

本市における方向性については、このような形で進めるのが理想的ではないかなと思っています。私は17年間中学校の教諭をしており、部活は剣道部を指導してきましたが、部活動や中体連に関わって、多様なニーズにどう答えていくかということに苦勞しました。指導者はいるが子どもがいないこともあるし、子どもはいるが指導者はいない、統廃合を繰り返すという経験もしてきました。持続可能な形で、地域クラブが継続していけばよいと思っていますので、そのような形になるように努めていきたいと考えています。今回は休日ということですが、平日も含めるといった移行期になったときに、どのように円滑に移行していくのかということも重要なポイントになってくると考えています。

【委員（学校関係者）】

平日と休日の指導者の違いということで、生徒が戸惑わないようにということで事前に意見を申し上げましたが、これは国の方針でもあるし進んでいかなければならないと思いますが、具体的にどんなイメージになるか考えてみましたが、おそらく主となるのは休日の指導者になるのではないかと考えます。学校の教員は事務仕事（生徒の掌握等）に徹するような感じになるのではないかと考えます。ただし、高体連は、ほとんどの仕事を教員がやっています。それは大きく変わらないと思いますので、教員は事務仕事に徹するのかなと思います。もちろん、教員でも指導をしたい方は地域クラブに所属することはあり得ます。先日、道教委からきた通知文を見ますと、兼職兼業を認める際の条件として月の超過時間が80時間未満でなければならないという条件があります。本校でも、休日の部活動指導により月に80時間から100時間という教員がいますので、移行期においては、齟齬が出てくるのかなと思っています。方針、方向性はよいと思いますが、様々な問題点は出てくると考えますので整理していかなければならないと思っています。

【委員（学校関係者）】

幼稚園ですと、スポーツに関わる場面は少ないですが、文化芸術という部分では、先日、芸術祭に展示させていただいており、そういう面では、いろんな機関に協力をさせていただいています。スポーツについては、遊びという感覚で取り組んでいます。中学生の部活動については、客観的な立場から見ることになると思いますが、競技人口も減っている、専門指導員も少ないということをお聞きしているので、そういう中で様々な課題はあると思いますが、実際に競技をする生徒さんにとってよりよい環境のもとできるように考えていければよいと思っています。教育委員会との意見交換の際にも申し上げましたが、平日と休日の指導者が違うという部分について、慎重に取り組んでいかなければならないと思います。

【委員（PTA関係者）】

芦別市として単独でできるもの、できないもの、大人数でできるもの、少人数でできるものをすみ分けして、検討した方がよいと思っています。子どもの数がどんどん減っていく中で、サッカーですとか野球など、大人数でやるスポーツはこの先、芦別単独でできることはないと思いますので、それをここで議論しても何の意味もないと思っています。私も、滝川ですとか砂川ですとか、空知で一つにしてできるような環境づくり、近隣の市町村と協力しながらやっ

ていくという考え方がよいと思っていますし、現実的かなと思っています。

【委員（PTA関係者）】

子どもたちがスポーツ（バスケットボール）をさせてもらっていますが、中学校は、他校との合同部活動で小学校は深川のチームとの合同でやらせてもらっていますが、それでも、できる環境があるのありがたいと思っています。個人の競技であれば、少ない人数なので可能かもしれませんが、大人数でやるスポーツは芦別では難しくなってくると思っています。平日と休日のコーチが違うという部分では、平日の練習と休日の試合とでコーチが違うと指導が統一されない等困るので、同じ考え方を共有して指導をしてくれればできると思いますが、すごく難しいと思っており、子どもたちも、同じ方向性でなければ混乱すると思うので、その辺は難しいと思いますが、難しいからと言って進めないわけにはいかないところまで来ていると思いますので、子どもたちが少しでも続けていけるような環境を整えていければと思います。

【委員（PTA関係者）】

啓成中学校の部活動では、経験のない先生が顧問になってくれたりすることもあります。地域移行することで、専門の知識を持った指導者がついてくれるのは大変ありがたいと思いますが、指導方針の違いで子どもたちが戸惑うのが心配な部分があります。自分の子どもの話になりますが、中学校で続けていた部活を高校でも続けていきたいという気持ちがあり、芦別高校にはその部活がなく、やむを得ず市外の高校に進学しましたが、資料1にもあるように、小中高の接続というように、芦別市内で同じ競技を続けていけていけたらと思います。皆さんと同じように、個人競技と団体競技を同じように検討していくのは難しいと思います。

【委員（公募委員）】

私は中学、高校と吹奏楽を6年間やってきました。大人になってからも吹奏楽を続けていますので、文化系の立場でお話をさせていただければと思いますが、地域クラブという方向性は間違っていないと思います。文化系は、集団というよりも個人の場面が多くなりまして、そうすると今ある部活動よりは、子どもたちにとって選択肢が増えるのかなと思います。その一方で、子どもたちが分散してしまう可能性、デメリットもあります。吹奏楽の話させていただきますと、指導者によって全く変わってきます。平日と休日で指導者が変わってしまうと、真逆の指導というもあり得ますので、意思疎通が図れてうまく連携できるような形で進めていければと思っています。平日もとなると更なる検討が必要になってくると思いますが、吹奏楽も市内で人数が減ってきておりまして、過去には、小学校、中学校、高校と合わせると100人程いましたが、半分近くまで減ってきており、やっていくのは難しくなってくるのかなとは思いますが、地域移行を契機に知恵を出し合いながら文化もスポーツも盛り上げていければと考えております。個人的な意見になりますが、スポーツと文化では所管も違えば制度も違うので、どこかで、運動系と文化系を分けた中での協議、検討が必要と感じました。

【委員（公募委員）】

部活動に関する部分では様々な意見が出てくると思いますが、この協議会が立ち上がったそもその理由は、先生方の残業問題、働き方改革があると思いますので、最初のスタートとしては、休日だけ外部に出していくというやり方はありだと思っておりますが、そもそも、着地としては、先生の部活動に対する残業をゼロにするということを考えていかないといけないかなと思っています。その中でいうと、平日は1時間部活動を教えたとして月に20時間。それ以外の事務もあるでしょうから月に30時間を超えてくると思います。そうすると36協定を結んでいるかわかりませんが、年間360時間ということになってしまいますので、改善しなければ

ならないところまでたどりつかないと感じています。それを改善するために団体を一つ立ち上げるのは賛成ですし、どうせやるなら、平日も含めて委託をすることも考え、不要であれば狭めていくといったやり方もよいのではないかと考えています。部活動に関しては少子化を止められませんし、教える側の高齢化も止められないと思いますので、単体でできなくなるスポーツが出てくることにしっかりと向き合いながら、他の学校との合同チームもすごくいいことだと思います。芦別で子育てをしていて不安に思うことは、子どもたちは関わる友達も少ない中で、狭い世界で生きていることに不安を感じていますので、子どもの世界が広がる意味でもよいことだと思っています。

【委員（公募委員）】

私は中学、高校と吹奏楽を6年間やってきました。テスト期間以外は、すべて部活をやってきましたので先生には感謝していますし、50人規模でやってきましたので、コンクールで全道、全国を目指してやってきた者としては、寂しくなったなと思うのが一つです。自分の子どもも上小と啓成中を出ていますが、自分の子どもたちも吹奏楽に入りたかったけど、上小、啓中には吹奏楽がないので、運動部に入っていました。その分、小学校の時から吹奏楽を親子でさせてもらいまして、子どもたちも、うちの団員に育ててもらったという思いはあります。指導者が変わると同じ曲でも全く変わってしまうので、休日だけというのは、とても難しいところなのかなと思っています。前の顧問の先生のとときに、私も芦別中学校には何度かコンクール時代に指導を依頼され日曜日とかに行っていました。指導者がいるからこそ指導できるというのがあります。指導者がいない中で指導をすることは難しいと感じています。吹奏楽という分野では、部活動ということではなく、平日も含めて大人から子どもまで、吹奏楽団と一緒にやる方がスマートなのかなと思っていますし、みんなで演奏する楽しさは、そこで生まれるのかなと思っています。

【委員（公募委員）】

皆さんのご意見を聞きながら、自分が指導する立場になった場合、どのように動けるのかを考えていきたいと思っています。2年前から芦小にいた教頭先生がバレーボールを教えるということで、娘が芦別中のバレーボール部に所属していますが、保護者として、これから強くするのか、楽しくやるのかという中で、今回、こういう問題が出てきたときに、そこに何かしら携われるような形で、どういう動きが取れるのか、協力をとれる体制を一人の市民として考えていきたいと思っています。バレーボールについては勉強しながら、中学校の練習が休みの日に一年生の仲間を集めながら練習しています。今後、そういうことに携わるという中で、市民にも協力体制をつくったときに、指導者としての資格の問題ですとか、関わってくるとは思いますが、その資格を持っている人は中々いないと思います。私もスキーの指導員の資格はありますが、それがあるだけで、ただのスポーツ好きということでやっていますが、いろいろなことを勉強することが、この会を通じて協議される中で、その体制が芦別にできるのであれば、素晴らしいことだと思います。最終的には子どもたちのことを考えて、部活動のことスポーツのことを含めながら、良いまちづくりにもつながってくるとは思いますので、できるだけ多くの人たちを巻き込みながら進めていけたらと考えています。

【委員（PTA関係者）】

保護者という立場と、啓成中学校のコーチをしている立場でお話をさせていただきますが、子どもが4人おまして、高校生、中学生、小学生におりますが、部活に関わった子は一人もいません。習い事として習字、水泳、柔道を習っています。市内でやっているのは、習字と柔道です。バレーボールですが、今年の4月から週1回、あるいは隔週で指導を手伝っています

が、先ほどから指導者が変わるという話がありますが、私の場合は、先生の指導に口は出しません。子どもたちから聞かれたときに限り、アドバイスをしています。私のほかにも、私の後輩が手伝いに来ている状況ですが、先生の指導方針や指導内容にいっさい口を出していないと思います。先生や子どもたちから聞かれたときに、アドバイスをしていますと思います。私がなぜバレーボールをいまだにやっているかといいますと、単純にその競技が大好きだからです。正直体は動きませんが、子どもたちにもその競技を好きになってほしいという気持ちで関わっています。バレーボールが好きで集まってくれたメンバーが、大人になってもその競技が大好きで続けてくれたらいいなと思っています。その観点から、子どもたちが、芦別の中でやりたいときにやれないとなったときに寂しいですし、大人として情けないなという気持ちでいます。ですから、子どもたちが何かしたいといったときに、させてあげられるような環境づくりがこの会を通して進んでいけばいいと思っています。

【委員（学校関係者）】

私も教諭時代は部活動の指導に明け暮れていました。遠軽高校と旭川東高校の野球部の監督をトータルで24年間務めました。平成14年から管理職になりましたので、直接の指導は携わっていませんが、運営側として手伝っていました。部活動にしろ地域のクラブチームにしろ、スポーツ系であれ文化芸術系であれ、最終的な目標というのは、人間形成につながるんだろうなと感じています。そういった意味で、子どもたちが何らかの形で取り組んでくれればと思います。まさに我々は、生涯スポーツという言葉がありますので、子どもたちには限定しませんが、そういう場の環境づくりをするといえますか、そういう場所を確保してやるというのが大人の役割ではないかなと私自身感じております。道内を回っていて芦別の良さは何かと考えますが、何かをやるときに、「ひと」「もの」「かね」という言葉が使われますが、芦別の体育施設あるいは文化施設、人口の規模からいっても私は非常に素晴らしい資源だと思っています。こういったものを有効に活用できないものかと考えています。どうしてもこういう会議は体育系が中心になりがちですが、文化系で吹奏楽の方もおりますので、高校でいえば、高体連、高文連、高野連と様々な分野の方がいて非常に良い会だと思います。それと、子どもが少なくなってきたのは事実です。北海道の中学3年生の数ですが平成元年が約9万人だったと思います。それが30年足らずで半分以下に減っています。これは、芦別だけではなく札幌を除けばどこにも共通していますし、文科省からの通知は首都圏を中心に語られることが多いです。道内も札幌と同じようには絶対にならないので、地域の実態に合わせて進めていくのが一番良いと思っています。できない理由をあげるのは簡単なもので、何ができるのか、どうしたらできるのかを模索していけるようになれば良いのかなと考えております。

【会長】 皆さんよりご発言いただきました。皆さんのご発言に対し、事務局から何かあればお話しください。

【教育長】 様々な貴重なご意見等をいただきましたことに対しまして心からお礼申し上げます。私の方から一つひとつのご意見に具体的にお答えする術はございません。感想も含めてお話をさせていただきますが、改めて様々な課題があるということについて教育委員会としましても認識をさせていただきました。そういった中において前田会長から、できない理由という観点ではなくて、どうすればできるのかという観点でという話がありました。我々教育委員会としても改めて意思疎通を図ってまいりたいと感じたところです。また、芦別の人口規模ですとか児童生徒の数などを踏まえ、現実的な視点に立ったご意見、アイデアをいただきました。これも非常に大事なご意見というふうに受け止めさせていただきました。従いまして、今日につ

いては結論が出る話ではございませんので、教育委員会といたしましては、本日いただきました皆様からの貴重なご意見或いは課題を整理させていただきながら、そしてさらに論点整理もしたうえで、次の検討協議会の中で、更なる深い議論につながるような論点整理をさせていただきたいと思っております。後ほど、事務局の方からご案内させていただきますが、意見集約シートを配布させていただきましたので、本日いただいたご意見あるいはそれ以外についていろんな考え方があろうかと思っておりますので、ぜひ意見集約シートにもご記入いただいた中で、そういったことも含めて教育委員会としてさらに次の意見交換につながるように論点整理も含めながら進めていきたいと考えております。

【会長】 それでは、次の今後の進め方について、事務局より説明願います。

12 今後の進め方

(1) 今後の進め方について（事務局より説明）

- ・資料5に記載のスケジュールに基づき進めていきたい。

(2) 意見集約シートについて

- ・次回の会議に向けての意見や本日発言出来なかった事などを記載して事務局へ提出ください。
- ・会議の運営・進行方法や気付いた点などがあれば合わせて提出してください。

(3) 次回開催日程について

- ・12月1日（金）、開催時間は本日と同時刻の午後6時からとなります。

【委員から特に意見なし】

13 その他

【全体を通して特に意見なし】

14 閉会